

四百年の
歴史と今

第六十一回

日本舞踊協会公演

現代を代表する舞踊家による日本舞踊公演

現代を代表する
舞踊家による
日本舞踊公演

現代を代表する
日本舞踊家が流派を超えて
競演する日本舞踊協会公演です。
古典舞踊の名作、大作をはじめ
近現代の舞踊家による振付作品、
そして上方舞まで
さまざまな姿をご覧に入れます。
日本舞踊は長い歴史の中で
脈々と受け継がれてきました。
日本人ならではの洗練された美、
軽やかなおかしみなど、
豊かな表現にあふれる日本舞踊の
世界をぜひご鑑賞ください。

演奏

- 《長唄》
 - 「雨の四季」春興鏡獅子「椿しほり」
 - 「太刀流人」扇の寺
 - 杵屋 勝四郎（唄）
 - 今藤 長一郎（唄）
 - 杵屋 栄八郎（三味線）
- 《清元》
 - 「吉野山」三社祭「六玉川」
 - 清元 美寿太夫（浄瑠璃）
 - 清元 美治郎（三味線）
- 《常磐津》
 - 「寿万歳」双面「習巻」勢獅子
 - 常磐津 一佐太夫（浄瑠璃）
 - 常磐津 文字蔵（三味線）
- 《義太夫》
 - 「万歳」
 - 竹本 駒之助（浄瑠璃）
 - 鶴澤 津賀寿（三味線）
- 《菟江》
 - （金谷舟前）
 - 菟江 露舟（浄瑠璃）
 - 菟江 露延（三味線）
- 《箏曲》
 - 米川 敏子
- 《囃子》
 - 堅田 新十郎
- 《富本》
 - 「豊国万歳」
 - 富本 豊いつ（浄瑠璃）
 - 富本 豊前（三味線）
- 《地歌》
 - 「おちやめのと」
 - 富山 清琴
 - 富山 清仁
- 《奏風楽》
 - 「花影風韻」
 - 杵屋 秀子（唄）
 - 長谷川 春風（三味線）
- 《録音音源による上演演目》
 - 創作邦楽「絲綢之路」
 - 新邦楽「阿蘭陀万歳」
 - 長唄・常磐津・義太夫「新版清餅合戦」

【チケット料金】
1等 8,500円(指定席) / 2等 5,000円(指定席) / 3等 2,000円(自由席)

【前売り開始日】
平成29年12月20日(水) 10時より

【各種割引】
障害者割引：1等・2等を2割引 (1等 6,800円 / 2等 4,000円)
※ お申し込みは協会事務局まで (電話 03-3533-6455 / info@nihonbuyou.or.jp)
25歳以下割引：当日会場受付にてお一人様 500円キャッシュバック(1等、2等限定)
※ 前売・当日売に関わらずキャッシュバックいたします。公演当日に限ります。
※ 当日年齢が確認できる証明書を日本舞踊協会受付でご提示ください。

【チケット取扱】
■ ヴォートルチケットセンター
電話:03-5355-1280 (有人対応 平日10時~18時)
■ 電子チケットぴあ
電話:0570-02-9999 (Pコード:483-160) インターネット予約 <http://t.pia.co.jp>
■ 国立劇場チケットセンター (窓口取扱のみ)
東京都千代田区隼町4-1 電話:03-3265-7411

【主催・お問い合わせ】

【後援】

国立劇場大劇場

東京都千代田区隼町4-1 ☎03-3265-7411



一、常磐津「寿万歳」

太夫 花柳 寿美
才藏 西川 鯉之丞

61回公演の幕開きは各回「万歳」が飾ります。
初回は昭和9年に初代吾妻徳穂の家元披露公演で開曲された吾妻流の特別選定曲。女の太夫との男の才藏(猿若)がめでたく華やかに舞い納めます。
振付・初代吾妻徳穂

二、長唄「雨の四季」

中村 芝延 花柳 丈陽人
水木 優吉 花柳 秋田県支部
水木 愛歌 花柳 優梓
若柳 ゆり歌 花柳 乾誉
水木 歌惣 花柳 山形県支部
宮城県支部 福島県支部

江戸の四季を、雨の降る風景でたどっていく、いかにも日本らしい情緒にあふれる名作です。今回の出演は協会東北6支部の代表による共演、新振付でご覧いただけます。
作詞・池田弥三郎 作曲・山田抄太郎 振付・花柳せいら、西川大樹

三、清元「吉野山」

尾上 菊之丞
静御前 市川 ぼたん

「義経千本桜」の四段目、満開の桜に霞たなびく吉野山を舞台に、義経を訪ね行く静御前と忠信の道行を描きます。忠信が実は狐という設定も見所の歌舞伎舞踊の人気作です。

四、創作邦楽「絲綢之路」

尾上 菊紫郎 五條 詠
若柳 佑輝子 若柳 美香康
藤間 直三

絲綢之路とはシルクロードのことです。東の起点と言われ、かつて栄華を極めた唐の古都長安の風景、今や砂に埋もれた遠い昔のこと、玄宗皇帝と楊貴妃の物語が甦ります。作詞・駒井義之 作曲・今藤政太郎 振付・尾上墨雪

五、常磐津「双面」

西川 箕乃助 五條 珠實
吉田松若 花柳 典幸 西川 扇二郎

法界坊と野分姫の二人の亡霊が一つになって現れるという奇抜な趣向の演目で、最大の見せ場は二人の恋の恨みを踊り分けるところ、歌舞伎舞踊の魅力がたっぶりの大作です。

一、富本「豊国万歳」

太夫 若柳 壽延
才藏 山村 友五郎

歌川豊国の浮世絵に描かれた兄弟の絵を舞踊化したもので、富本節に残る名曲の一つ。太夫が江戸、才藏が大坂の名所、名物やお国ぶりを互いに自慢し並べ立て面白おかしく見せます。
振付・初代若柳壽童

二、常磐津「新版酒餅合戦」

松風 光陽 藤間 達也
若柳 吉優 花柳 昌克
西川 扇重郎 西川 仁風
花柳 昌鳳生 西川 扇衛仁
五條 珠太郎 若柳 吉應
花柳 白妙の方 水木 優白
白妙の方 藤間 眞白

酒と餅と大根を擬人化して描くユーモアあふれる作品。酒の三郎と餅の六郎は互いの言い分を主張してやがて合戦に。そこに仲裁に入るのは大根の白妙の方、さてその結末は？今回はNHKに保存されていた貴重な音源を使用し、新振付でご覧に入れます。
作曲・杵屋正邦 振付・西川扇与一

三、清元「三社祭」

悪玉 猿若 清三郎
善玉 泉 秀 樹

浅草の三社祭、漁師の山車人形が踊り出すという奇抜な演目。善玉・悪玉になつての早間の踊りなど、とにかく賑やかで時にコミカルな踊りを舞踊家の活きの良さで魅せます。

四、荻江「金谷丹前」

藤間 藤太郎

荻江の代表的な曲で、美しい桜のもと、想い人へ寄せる気持ちやほのかな嫉妬をしっかりと描きます。振付者が浮世絵に想を得て工夫した振りや衣裳、かつらにもご注目ください。
振付・藤間藤太郎

五、長唄「太刀盗人」

藤間 勘右衛門
坂東 巳之助
花柳 昌太朗
若柳 里次朗

狂言舞踊の人気作。刀を盗んだすっぱと盗まれた田舎者。二人を詮議する目代ですが、すっぱはずる賢く田舎者の真似をして詮議をすり抜けます。困った田舎者がとった行動とは？

一、新邦楽「阿蘭陀万歳」

太夫 花ノ本 大日翠
才藏 花柳 海

日本に漂流したオランダ人が、万歳を覚えて正月の門付けにまわるうちに望郷の念にかられます。コミカルな中に哀愁も漂う名作で、昭和8年に花柳舞踊研究会で初演されました。
立案・福地信世 編曲・町田嘉章 振付・二代花柳壽輔

二、奏風楽「花影風韻」

花柳 ツル 菊透
中村 爽子 尾上 扇左衛門
藤間 恵都子 花柳 輔藏
水木 佑歌 花柳 登貴太郎
若柳 歌 藤間 祐彦 若柳 豊彦 若柳 助彦 若柳 公祐

《春》は燕を男に見立てて若い娘の恋心を、《夏》は紫陽花を女性に見立ててその姿容を、《秋》はへちまを怠け者に見立ててその怠けぶりを、四季折々の風物をユニークに描く異色作。
作詞・仁村美津夫 作曲・松原奏風 振付・尾上墨雪

三、長唄「春興鏡獅子」

花柳 基 胡蝶 秀衛
若柳 薫子
花柳 若女 若柳 三信之輔
花柳 静久郎

「娘道成寺」と並んで日本舞踊を代表する演目の一つ。可憐な弥生と勇壮な獅子を踊り分けるという踊りの醍醐味が凝縮されている大作です。愛らしい胡蝶にもご注目ください。

四、地歌「おちやめのと」

井上 八千代

「おちやめのと」とは上方の言葉で、上流階級の乳母のことです。子供を背負い流行り唄であやす、純朴な乳母の姿が描かれており、にじみ出る子供への慈愛が心に響きます。

五、長唄「棒しばり」

市山 松扇
花柳 源九郎
若柳 宗樹

酒好きの召使いに困った大名は、一人を棒にしばり、一人は腕をうしろにしばります。それでも呑みたいお酒に二人は悪戦苦闘、協力して何とかお酒にありつきませんが…。

一、義太夫「万歳」

中村 梅彌
花柳 壽輔

最終回の幕開きは、元は文楽の花鏡四季寿のうち、春の「万歳」をご覧いただけます。鶯の鳴くのでめでたい初春気分を、太極三味線の音色とともに楽しんでください。
振付・二代花柳壽應

二、清元「六玉川」

泉 秀彩霞 坂東 はつ花
花柳 輔瑞佳 藤間 蘭翔
花柳 寿美琴音 藤間 蘭翔

山城に始まり紀州、近江、摂津、奥州、武蔵まで和歌に詠まれた六つの玉川。各地の玉川にまつわる風物を巧みに取り入れた清元の名曲を、六人の舞踊家が旅情豊かに踊ります。
振付・藤間藤太郎

三、常磐津「鞆猿」

猿 奴橋平 若柳 吉蔵
花柳 輔太朗 小猿 松永 依
女大名 藤間 洋子

女大名によって鞆(狩りの矢を入れる道具)の皮にされそうになる小猿と、小猿を守ろうとする猿の心温まる情愛の物語。健気に芸を披露する小猿の可愛さも注目です。

四、長唄「扇の寺」

吾妻 徳穂
花柳 柳 壽 樂

能の班女を下敷きに先代壽樂が創作した名作。公達を慕って京を訪れる白拍子がふと出会う笛吹の男、春の京満開の桜の念佛寺を舞台に淡い出会いと別れの情感豊かに描きます。
作詞・海津勝一郎 作曲・七代目 杵屋巳太郎 振付・二世花柳壽樂

五、常磐津「勢獅子」

藤間 蘭黄 西川 大樹
花柳 寿太郎 花柳 寿美藏
手古舞(東京支部) 若柳 海鈴 藤間 里燕
若柳 染彩 若柳 杏子
若柳 樂 若柳 樹太朗
若柳 君彌 若柳 秀暉
若柳 基香緒 若柳 樹太朗
若柳 聖衣暉 若柳 樹太朗
若柳 聖衣暉 若柳 樹太朗

粹で威勢の良い若頭とあてやかな手古舞が登場すれば、江戸の祭りの雰囲気舞台に溢れます。ぼうふらふと呼ばれるおどけた踊りや獅子頭の息の合った踊りなど、見所たっぷりの一番で第61回公演を賑やかに締めくくります。

日本舞踊がもっとわかる！ 公演がもっと楽しめる！
第61回 日本舞踊協会公演 プレ レクチャー
日時 平成30年1月25日(木) 14時~15時30分
会場 国立劇場伝統芸能情報館 3F レクチャー室
講師 古井戸秀夫
料金 無料・先着100名
お申し込み方法など詳しくは 日本舞踊協会ホームページ www.nihonbuyou.or.jp をご覧ください。